



⑪ 元服祝受納之帳

安政4年(1857)11月15日

「元服」は「頭(=元)に冠をつける(服す)」という意味で、加冠とも初冠とも呼ばれ、冠婚葬祭の「冠」の語源となった成人儀礼です。もとは、貴族や武家のおおよそ数え年で12歳から16歳の男子が、氏神の社前で大人の服に改め、美豆良みずらと呼ばれる子供の髪型を改めて大人の髪もとどり(髻)を結び、冠をつける儀礼でした。民間へは室町時代以降に広まっていたと考えられています。この史料からは、幕末までは元服儀礼が行われていたことを知ることができます。

小林小五郎家文書 P8117 No.865

(藤岡市中大塚)

〔表紙〕

(表紙)

⑪ 元服祝受納之帳

安政四巳年  
元服祝受納之帳  
十一月十五日

目出度祝

- |        |         |
|--------|---------|
| 一鳥目式拾疋 | 小林源兵衛   |
| 一同式拾疋  | 小村八郎右衛門 |
| 一同式十疋  | 同友右衛門殿  |
| 一同     | 同長左衛門殿  |
| 一同三十疋  | 井田勝蔵    |
| 一式十疋   | 同市左衛門   |
- (後略)